第32号（2024年冬号）
発 行 日　2024年2月29日
信州大学教職支援センター
Shinshu University
Center for the Teaching Profession

教職支援センター　ニューズレター

巻頭言　【 いじめから立ち直るために、教師ができること 】

今回の巻頭言では、私たちの研究チームの研究成果を１つご紹介します。テーマは、「いじめ被害経験からの立ち直るための効果的な教育の在り方とは」です。

2023年10月3日に文部科学省が公表した調査結果では、いじめの認知件数が過去最多（68万1、948件）となりました。いじめ被害経験は、その直後の自尊感情の低下や、うつ病の増加、学業不振、社会生活から離脱などのさまざまなリスクを高める要因になります。また、子どもの頃のいじめ被害経験が大人になってからのリスクを高めることもあります。例えば、水谷・雨宮（2015）では、小学校・中学校・高校の各時期のいじめ被害経験が大学生の自尊感情に与える影響について研究されています。そこでは、とりわけ小学校時代のいじめ被害経験が大学生時点での自尊感情を低下させる要因になっていることが示されています。児童期は自尊感情の基盤が作られる大切な時期ですので、長期的に負の影響として残ってしまうのだと考えられます。

こうした問題を防ぐために、いじめの未然防止と早期発見・早期対応が重要であることは言うまでもありません。一方、いじめの認知件数が増加傾向にある現状においては、いじめ被害経験から立ち直るための効果的な教育の在り方についても考えていかなければなりません。そこで、私たちの研究チームでは、小学校時代のいじめ被害経験が大学生の自尊感情に与える負の影響を緩和することができる保護因子を教育資源のなかから探そうという研究を行っています。最初に着目したのは、小学校、中学校、高校の各時期における被教育相談経験です。より多くの教育相談を受けた子どもは、将来的な自尊感情の低下が緩和されるのではないかと考えました。さらに、この研究では、いじめ被害の種類（言動によるいじめと、仲間はずれによるいじめ）や、教育相談の質（情緒的サポートと、道具的サポート）にも着目して検討を行いました。

詳細な結果の報告は割愛しますが、中学校や高校の時期に十分な教育相談を受けていると、いじめ被害経験がなかった学生と変わらないほど自尊感情が回復することがわかりました。また、仲間はずれによるいじめ被害には、助言や指導などの道具的サポートが効果的であり、言動によるいじめには、共感的・受容的に接してもらう情緒的サポートが効果的であることが考えられました。いじめで傷ついた自尊感情が回復するためには、被害があった当時の心のケアだけでなく、長期的な支援が必要です。学校教員だけでそのすべてを担うことはできませんが、教員の教育相談も、子どもたちの自尊感情の回復に対して確かな力になれることを示す科学的根拠の１つになるのではないかと思います。

なお、この研究では、質問紙で測定した顕在的自尊感情だけでなく、潜在連合テストで測定した潜在的自尊感情も扱っており、興味深い結果を得られました。後日、論文等で発表しますので、興味のある方はお手に取っていただけると幸いです。

【 引用文献 】
水谷聡秀・雨宮俊彦（2015）：「小中高時代のいじめ経験が大学生の自尊感情とWell-Beingに与える影響」
教育心理学研究、*63(2)*、102-110.

横嶋敬行（教職支援センター　助教）

初級CST養成講座を振り返って（1）

令和5年12月9日（土）松本キャンパスで、令和5年度初級CST認定修了審査会を実施しました。

CST（Core Science Teacher）とは、理科教育の中核的役割を果たす教員で、信州大学と長野県教育委員会と共同でCSTの人材養成に取り組んでいます。

初級CST認定修了審査に挑戦したみなさんの感想を冬号・春号の2回で紹介します！

【小野ひなたさん（理学部）】

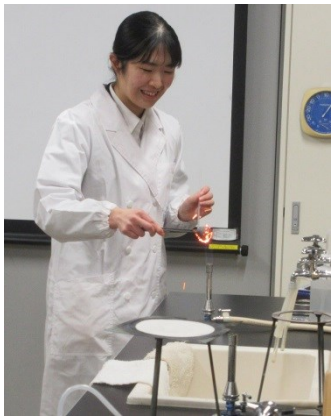
私の学年は入学と共にコロナの影響を受け、日々の授業や友達との関わりの面で多くの不安がありました。そのような中で自分の学部の授業に加え教職課程を履修し、さらにCSTまで取るかどうか迷いましたが、結果としてCSTでしか得られない経験を得ることができ本当に良かったです。

CSTでは中学の理科で感じていた純粋な理科の面白さを再び経験することができ、やはり理科は面白いということを再認識しました。それと同時に、ただ面白いのではなく、簡単に用意できるものを使った実験や、キャベツの葉からみえるフィボナッチ数列、ライトやフィルムを用いた光の三原色の実験とその利用など、身近なものの中には沢山の「理科」が含まれていることに改めて気づかされ、「面白い・興味が惹かれる・どうしてだろう」と思える教材をどのように作っていくのかということを学ぶ事ができました。

また、CST修了審査会では、他学部・他コースの授業を見ることができ、各々の授業へ思いや新しい考えを得ることができとても刺激的でした。また、同じ立場の学生から、改善点や良かった点についての意見をもらえたことも、教育実習だけでは得られなかった経験なのでとても勉強になりました。

【大溝結菜さん（工学部）】

様々なCSTの授業に参加することで、生徒へ理科のおもしろさをどのように伝えられるか、どうしたら楽しいと思ってもらえるかなど考えるよいきっかけとなりました。自分自身も楽しく、生徒の目線に立って授業を考えることができました。



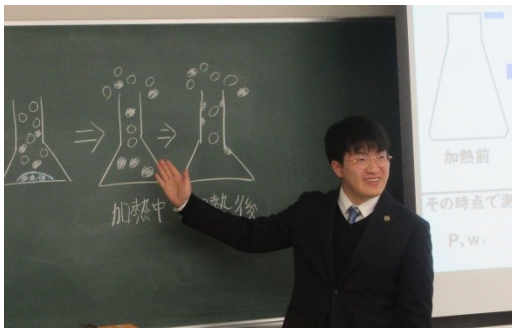
【中野日陽さん（農学部）】

修了審査会への参加を通して、「必要感」を大切にした授業をしたいという思いが強くなりました。これまで授業を考える際には、学習を終えた生徒の姿、どのような力を身に付けさせたいかを軸にしていました。しかし、審査員の先生方のお話や発表から、生徒のもった疑問や学習課題を学習指導要領、教科書に寄せてしまい、生徒の必要感を大切にできていなかったと反省しました。理科では電気の単元やイオンなど、目に見えないものについて考えることもあり、学習内容を自分ごととして捉えることのできない生徒も多いと思います。今後は、導入時に生活と学習内容のつながりを感じさせる工夫や、生徒の既知とずれを生じさせ疑問をもたせる工夫などを行い、「教えたいこと（教科書的な内容）」を生徒が「学びたいこと」として共有できることを大切に、考えていきたいと思います。

4年間のCSTの活動を振り返り、理科の魅力を感じる充実した時間であったと感じています。日々の活動では、身近なものの教材としての利用や分かりやすい実験方法を、実物に触れながら考えました。農学部の仲間たちと疑問を共有し、話し合いながら、実験する時間はとても楽しかったです。いずれ教壇に立った際には、CSTの活動のように自らが楽しみながら、生徒とともに学びを深めていく伴走者でありたいと思います。

【山﨑康世さん（繊維学部）】

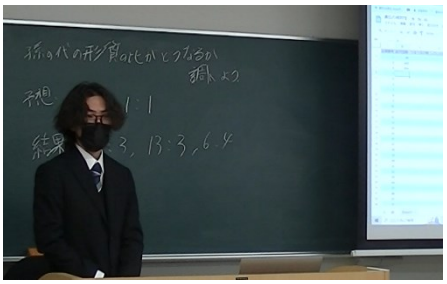
CSTを4年間通して理科の教材研究に対して多くの学びがあったと思います。理科は必ずと言っていいほど実験を通して授業を展開していきます。その中で教材研究の仕方、教材に実際に触れて事例を知るということをできたのは良い学びになりました。まず自分がその実験に対してどうしてこうなるのか、なんでこうなっているのか面白い!と思えることが教師にとって重要なことだと思っています。その力をこのCSTの活動を通して、身につけられたのはよい機会だったと感じました。



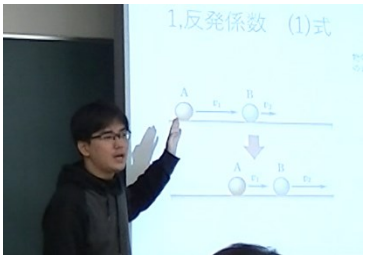
【中西優花さん（農学部）】

振り返ると、私の中で大きな学びの場となっていた。コロナ渦の中であまりできなかった時期もあったが、どの実験もとても印象に残っている。例えば、紙飛行機のどの位置にクリップをつけると遠くまで飛ぶかの実験である。一見楽しそうな遊びに見えるが、実は「重心」という物理の分野を学ぶ動機付けとなる。また、同じ学部で一緒にCSTを行っていた内の一人が開発した雲をつくる装置である。簡単に作れ、生徒も楽しく実験をして雲のでき方を学ぶことができる。理科の教科書には、様々な実験が記載されている。どの実験も学力の3要素をつけさせるために考えられたものだと思う。しかし、その実験をすることがイコール生徒の学びにはつながらない。実験の意図や生徒に何を考えさせ学ばせたいのかを考えた上で最適な実験を考え、行わなければならない。指導する上でとても基本的なことではあるが、非常に重要であり、必ず念頭に置いて指導していきたい。また、CST審査会を終え、最大の学びは、教師自身が楽しむことであった。生き生きと実験を楽しみながら指導する姿は、これだけで魅力的であり、惹きつけられる。大切にしていきたい。

【黒柳天翔さん（繊維学部）】



CSTはいつも私にとって知的好奇心をくすぐるものが多く、単純に楽しかったです。もちろんそれだけでなく、理科の指導者にとってとても大事な教材研究、素材研究の礎を自分の中に築く大きな素になったと感じております。普段の授業はもちろんのこと、CSTの修了審査では、違うキャンパスで異なる視点や考えを持った方々の指導案を聞けて、とても有意義な時間でした。特に授業では手を繋いで電球をつける実験、修了審査会では100均などの身近なもので雲を作る装置を自作している方や、身近な食べ物の水分量を調べる実験などは私の考えの範疇では到底作ることのできない素敵な指導案でとても強く印象に残っています。教育実習先での授業参観などでは、数人の理科の先生の指導しか見られないので、CSTは理科の指導者にとって、視野を広げ、自分を見つめなおして向上するとても良い機会だと思います。CSTを受けられたことが私の中では大学生活でも屈指の財産になりました。



【冨山尊清さん（理学部）】

周囲の工夫を凝らした授業を見ることができ、自分の至らない点がなんなのかを具体的に知ることができる良い機会となりました。物理を授業しましたが、物理を教えるにあたって、何が一番理解されないかを具体的に把握することができました。詳しく述べると、中学校から上がったばかりの人、物理を学んだことがない人にとって、文字をカタカタ計算するだけで、様々なことがわかるということがイメージしづらいということが分かりました。実際に授業する時には、文字を使って計算することにまずはなれるということを現場ではやった方が良いという結論に至りました。私たち物理科は、文字や記号を使ってカタカタ計算する事に慣れ切ってしまっているので、初心に戻った時に、何に躓くかをすっかり忘れてしまっています。それを知ることができました。小学校、中学校で教える時には、まずは、文字を一つだけ置いてみて計算することのイメージを掴むことが将来役にたつということも同時に言えます。CSTに参加して、多くのものを得ることができました。

教職支援センター11～2月の動き

○第３回教職支援センター運営委員会（11/8）
○第２回長野県総合教育センターとの連絡協議会（11/17）
○初級CST認定審査（12/9）○教職支援センター拡大打合せ（1/25）
○松本附属学校園と松本キャンパス教職課程設置学部との連絡会（2/9）

地域連携パートナーからのメッセージ

生坂村公民館地域未来塾

生坂村教育委員会社会教育係
吉川　祐貴

生坂村では平成29年度より信州大学様のご協力をいただき、「生坂未来塾」として学習支援を行う本事業が長野県内では最も早くスタートしました。

開始初年度は、実施教科を英語・数学の2教科、生坂中学校3年生を対象に募集し、学習を希望する7名の生徒が登録、信州大学学生の皆さんには学習支援員として4名の方にご協力いただきました。月2～4回、土曜日午前中の2時間30分の時間内で、高校入試後期選抜試験の内容に合わせた補習学習を行っていただきました。個別指導方式のため、生徒ひとりひとりが質問等しやすい環境であり、学校の授業では理解が足りない部分を十分補っていただくことができました。また、講師の信州大学学生の皆さんとは、年齢が近いこともあり、学習以外の部分での学生生活や趣味の話、日々の出来事などを話すことができたことで相互の交流が深まり、学習支援以外の効果もあったのではと感じました。また、出席率も全体を通して約80%と高く、生徒たちの満足度も高いようでした。保護者からも、金銭面での負担軽減や、子どもたちに学習する習慣が身についたといった声が多く聞かれたことから、次年度以降、実施教科、対象学年を徐々に拡大し、令和5年度の現在では、5教科全学年を対象に月2～4回、午後2時間の開催と、夏休み期間中の8月には4日間続けての集中講座を行い、年間30回程度を毎年開催しています。令和2年度からの3年間は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、開催日数を縮小するなどの制約を受けることもありましたが、生徒・保護者とも開催を希望する声は強く、感染症予防対策を講じながら続けることができました。

一方、課題や反省点ですが、生徒の集中力が継続できる時間ということで、現在は2時間の講座として設定しているところですが、限られた時間の中での指導となるため、生徒には事前に予習し、わからない箇所を明白にするよう声がけをしていますが、現状、万全ではないように感じています。また、実施日、実施時間に関する要望は毎年多く寄せられており、平日放課後の定期開催や開催時間の延長といったことが大きな課題と認識しています。しかし、学校行事や部活動等との兼ね合いや信州大学学生のみなさんとの調整も必要となるため、今後も継続的に開催手段の検討は必要であると感じています。

平成29年より6年間、地域の皆さんをはじめ、学校の教職員の方々、生徒や保護者から大変好評をいただいている本事業です。来年度以降も、時代や生徒・保護者のニーズに沿い工夫を重ねながら継続していきたいと考えています。今後とも信州大学教職員のみなさまや学生のみなさまのご協力のほどをよろしくお願いいたします。

編集後記

今期は学生たちのCST（Core Science Teacher）の活動や地域連携の学習支援の活動についてお届けしました。教職課程の学生たちの学内外での活躍が伝わる機会になれば幸いです。令和6年も、学生たちがより充実した活動や学びの機会を得ることができるように、支援をしていきたいと思います。

（広報担当　横嶋敬行）

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教職支援センター

■〒390-8621　**長野県松本市旭3-1-1**　■TEL：　0263-37-3367　■MAIL：kyousho@shinshu-u.ac.jp
■URL：　https://kyoushoku。shinshu-u.ac.jp/kyoushoku/